

◇会議報告◇

IFRS サステナビリティ・シンポジウム参加 報告

SSBJ ディレクター 桐原 和香

SSBJ 専門研究員 江口 智美

1. はじめに

IFRS 財団は、2023年2月17日に、初のIFRS サステナビリティ・シンポジウムをカナダ・モントリオールで対面及びオンラインのハイブリッドで開催した。

本シンポジウムは、国際サステナビリティ基準審議会（ISSB）が2023年6月末に公表予定である、投資家等の意思決定に有用なサステナビリティ開示のグローバル・ベースラインを提供するためのIFRS サステナビリティ開示基準について議論する目的で開催され、カナダ国内外からあわせて約1,000人（来場約500人、オンライン約500人）の企業、投資家及び政策決定者等が参加した。

本シンポジウムにおけるパネル・ディスカッションの1つ「我々が聞いたこと：ISSBの公開草案に寄せられた1400のコメントは、基準設定に関する議論をどのように方向づけたか（What we heard: how have 1400 ED Comment letters directed the standard-setting discussions?）」では、ISSB理事のVerity Chegar氏がファシリテーターを務め、サステナビリティ基準委員会（SSBJ）の川西委員長がパネリストとして登壇した。

2. 全体のスケジュール

本シンポジウムのスケジュールは次のとおりであった。

開催日時：2023年2月17日 9:05-17:35（カナダ・モントリオール）

（敬称略）

セッション	スピーカー	（役職等）
開会の挨拶 9:05-9:20	Emmanuel Faber	ISSB 議長

国際関連情報

<p>基調談話</p> <p>9:25-9:55</p>	<p>Mark Carney</p> <p>Sue Lloyd</p>	<p>UN Special Envoy for Climate Action and Finance and Co-Chair for the Glasgow Finance Alliance for Net Zero in conversation</p> <p>ISSB 副議長</p>
<p>パネル・ディスカッション(1)</p> <p>10:00-10:50</p>	<p>Verity Chegar</p> <p>Elisa Cencig</p> <p>Gabriela Infante</p> <p>川西 安喜</p> <p>Tom Seidenstein</p>	<p>ISSB 理事</p> <p>Senior ESG Policy Adviser, Norges Bank Investment Management</p> <p>Director, Corporate ESG, T. Rowe Price</p> <p>SSBJ 委員長</p> <p>IAASB 議長</p>
<p>パネル・ディスカッション(2)</p> <p>11:30-12:20</p>	<p>Sue Lloyd</p> <p>Martin Moloney</p> <p>Abigail Ng</p> <p>Bernardita Piedrabuena Keymer</p> <p>Grant Vingoe</p>	<p>ISSB 副議長</p> <p>証券監督者国際機構 (IOSCO) 事務局長</p> <p>Executive Director of Markets Policy & Infrastructure, Monetary Authority of Singapore</p> <p>Commissioner, Comisión para el Mercado Financiero (CMF)</p> <p>Chief Executive Officer of Ontario Securities Commission</p>
<p>パネル・ディスカッション(3)</p> <p>14:00-14:50</p>	<p>Ndidi Nnoli-Edozien</p> <p>Raymond Chamboko</p> <p>Kathlyn Collins</p> <p>Matthew Gamser</p> <p>Hui En Joanna Yeo</p> <p>Eliane Ubalijoro</p>	<p>ISSB 理事</p> <p>Director of W. Consulting, former Member of SME Implementation Group at IFRS Foundation</p> <p>VP, Head of ESG, Mathews Asia</p> <p>国際金融公社 (IFC) 中小企業ファイナンスフォーラム CEO</p> <p>CEO and Founder, ARUKAH</p> <p>PhD, Global Hub Director, Canada, Future Earth</p>
<p>パネル・ディスカッション(4)</p> <p>16:30-17:20</p>	<p>小森 博司</p> <p>Andreas Barckow</p>	<p>ISSB 理事</p> <p>国際会計基準審議会 (IASB) 議長</p>

	Barry Melancon	President & CEO, American Institute of CPAs and CEO, Association of International Certified Professional Accountants
	Pam Morrell	Senior Director, Corporate Reporting, Nutrien
	Pamela Steer	President and CEO, CPA Canada
閉会の挨拶 17:25-17:35	Michael Jantzi Veronika Pountcheva	ISSB 理事 ISSB 理事

3. 議事概要

(1) 開会の挨拶

ISSB 議長の Emmanuel Faber 氏より、公開草案「IFRS S1 号『サステナビリティ関連財務情報の開示に関する全般的要求事項』」（S1 基準案）及び公開草案「IFRS S2 号『気候関連開示』」（S2 基準案）について、前日に開催された ISSB ボード会議にて、基準の最終化に向けた書面投票のプロセスを開始することが決定されたこと、及び 2023 年 6 月までに最終基準が公表される予定であることが説明された。

また、サステナビリティ関連財務開示に関するモメンタムを継続することが重要であり、ビジネス及び環境の変化に対応する必要がある旨が説明された。企業のビジネスモデルは、これまで効率性に焦点を当てていたが、今後はレジリエンスにも留意する必要がある、投資家は企業のレジリエンスに関する情報を必要としている旨が説明された。

さらに、IFRS サステナビリティ開示基準は、企業の競争上の優位性（competitive advantage）を変化させる可能性があり、IFRS サステナビリティ開示基準という新しい言語（new language）を使用することにより、企業文化も変化するきっかけになる可能性があることが説明され、最初（day 1）からこの新しい言語を流暢に使用できないとしても、まずは使用し始めることが大切だという旨が強調された。

加えて、IFRS サステナビリティ開示基準は、プロポーショナルリティ、キャパシティ・ビルディング、救済措置などさまざまな対応策を定めることで、新興経済及び中小企業においても適応できるように開発されている旨が説明された。

ISSB 議長 Emmanuel Faber 氏による開会の挨拶



(2) 基調談話

本セッションでは、ISSB 副議長の Sue Lloyd 氏が Mark Carney 氏に質問する形式で、気候変動の開示に関して議論がなされた。具体的には、TCFD（気候関連財務開示タスクフォース）の体系が、ISSB の基準に組み込まれることの有用性、シナリオ分析及び移行計画に関する開示、ISSB のキャパシティ・ビルディングのための活動、グローバル・ベースラインの必要性並びに今後の課題について議論がなされた。

Mark Carney 氏からは、TCFD の当初のビジョンは、投資家等の意思決定に有用な情報を提供するために、企業にとって重要性があると考えられる事項の測定を促すことであり、“By the market, for the market”が、共通フレーズであった旨が説明された。

また、IFRS サステナビリティ開示基準は、TCFD の体系に基づいており、これまで TCFD が得た学びを活用できるという意味で効果的なアプローチであり、経営トップがリスクを管理するための方法、及びリスクを逡減させるための戦略など、取締役会レベルの責任について焦点を当てて理解することで、企業の今後の方向性について理解できると考えられることが説明された。

さらに、今後の気候変動の開示に関する課題として、開示に必要なデータを集計するシステムの構築及び改善を行うことが必要である旨が説明された。

Mark Carney 氏と ISSB 副議長 Sue Lloyd 氏による基調談話



- (3) パネル・ディスカッション(1)「我々が聞いたこと：ISSB の公開草案に寄せられた 1400 のコメントは、基準設定に関する議論をどのように方向づけたか (What we heard: how have 1400 ED Comment letters directed the standard-setting discussions?) 」

本セッションでは、ISSB 理事の Verity Chegar 氏がファシリテーターを務め、ISSB の公開草案に対して寄せられた主なコメントの内容、及び最終基準でのこれらのコメントへの対応方法について議論された。

パネリストは、作成者、保証提供者、投資家及び基準設定主体から構成され、それぞれの経験に基づき、重要性 (materiality)、ISSB によるガイダンスの提供、財務諸表とのコネクティビティ、見積りの不確実性、スコープ3 GHG 排出に関する開示、気候レジリエンス及びシナリオ分析、産業別開示要求、及び合理的保証への移行などについて議論された。

SSBJ の川西委員長からは、財務諸表とのコネクティビティの観点から、財務諸表と同じタイミングでサステナビリティ関連財務開示を公表することについて、日本国内でさまざまな意見が聞かれ、主に3つの課題 (リソース、スコープ3 GHG 排出のためのデータの入手、及び既存の規制との関係) が識別されたことについて説明された。また、報告のタイミングに関する移行措置についての ISSB の暫定決定を評価するものの、移行措置の期間を1年に限定するかについては、議論の余地があるのではないかという旨が説明された。

国際関連情報

さらに、川西委員長から、S2 基準案の付録 B の産業別開示要求について、SSBJ が ISSB に提出したコメント・レターでは段階的な導入を提案していたこと、及び付録 B を例示的ガイダンスとして位置付けるという ISSB の暫定決定を支持する旨が説明された。また、付録 B の産業別開示要求に関する 4 つの課題（SASB スタンドアードの国際化、産業分類、複数事業を営む企業、及び外部のガイダンスへの参照）についても説明された。

パネル・ディスカッション(1) ①（左から 2 人目、SSBJ 川西委員長）



パネル・ディスカッション(1) ②（左から 2 人目、SSBJ 川西委員長）



パネル・ディスカッション(1) ③ (右、SSBJ 川西委員長)



パネル・ディスカッション(1)④ (SSBJ 川西委員長)



(4) パネル・ディスカッション(2)「グローバル・ベースライン：現実か又は夢物語か（A global baseline: just around the corner or a pipe dream?）」

本セッションでは、ISSB 副議長の Sue Lloyd 氏がファシリテーターを務め、各法域における IFRS サステナビリティ開示基準の適応の見込み、及び適応に関する課題について議論がなされた。

シンガポール（Abigail Ng 氏）、チリ（Bernardita Piedrabuena Keymer 氏）及びカナダ（Grant Vingoe 氏）から参加したパネリストによって、各法域におけるサステナビリティ開示のこれまでの道のり及びサステナビリティ関連のリスク及び機会に関する投資家の情報ニーズの充足について説明がなされた。

また、IOSCO の事務局長である Martin Moloney 氏からは、IOSCO は、証券の価値にサステナビリティの要素が考慮される市場を構築することを目指しており、このプロセスが投資家によってドライブされることを期待している旨が説明された。さらに、ISSB の基準のグローバルでの相互運用可能性（interoperability）、スケーラビリティ及び透明性を確保するために、IOSCO は、今後 ISSB の最終基準を評価することが説明された。

(5) パネル・ディスカッション(3)「報告チェーンの改善：新興経済及び小企業を巻き込む方法（Levelling up the reporting chain: how to bring emerging economies and small companies along for the ride）」

本セッションでは、ISSB 理事の Ndidi Nnoli-Edozien 氏がファシリテーターを務め、新興経済及び中小企業において、IFRS サステナビリティ開示基準を適応するために必要なキャパシティをどのように構築できるかについて議論された。

特にアフリカ及びアジアにおいて、IFRS サステナビリティ開示基準を適用することによって、どのように一貫性がありかつ比較可能性がある報告を行うことができるのか、及びサプライチェーン上の新興経済の法域に関する情報ニーズをどのように充足できるかについて議論された。

また、国際金融公社の中小企業ファイナンスフォーラム CEO の Matthew Gamser 氏からは、新興経済及び中小企業において、サステナビリティに関する情報を収集する上で、デジタル化及びプラットフォームの構築が有用であることが説明された。

さらに、ISSB 理事の Ndidi Nnoli-Edozien 氏からは、新興経済及び中小企業を含め、すべての関係者に対応した、真のグローバル・ベースラインを構築することに ISSB がコミットしている旨が強調された。

- (6) パネル・ディスカッション(4)「包括的な報告：統合報告は、ビジネスの文脈にサステナビリティに関するパフォーマンスを含めることをどのように支援するか
(Comprehensive reporting: How integrated reporting supports putting sustainability performance in business context) 」

本セッションでは、ISSB 理事の小森博司氏がファシリテーターを務め、統合報告フレームワークが作成された経緯、及び統合報告が企業と投資家のコミュニケーションの促進に用いられる方法について議論がなされた。

パネリストによって、これまでの統合報告フレームワークの道のり、並びに統合思考を適用する上で企業が直面する機会及び課題について議論された。また、統合思考を企業に根付かせるためには、経営トップの意識の変化及び支援が重要である点についても議論された。

さらに、IASB 議長の Andreas Barckow 氏からは、統合フレームワークが IFRS サステナビリティ開示基準及び ISSB と IASB とのコネクティビティにおいて重要な役割を果たし得ることが説明された。

(7) 閉会挨拶

ISSB 理事の Michael Jantzi 氏及び Veronika Pountcheva 氏より、サステナビリティ開示基準のグローバル・ベースラインを確立するための ISSB のこれまでの道のり及び今後の ISSB の作業について説明された。

また、ISSB が新しい言語 (new language) を構築する上では、多様性 (diversity) が必要不可欠であり、ISSB は意図的に多様性のあるボードメンバーから構成されていることが強調された。

4. 次回の予定

来年度、第 2 回の IFRS サステナビリティ・シンポジウムが、開催される予定である。

以 上